科目名	基礎生物学・基礎化学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	千葉　忠成
		授業形態	講義		有		
（英）	Biology・Chemistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	オンデマンド/対面

講師紹介	薬学博士で生化学・化学・薬理学を専門分野で研究と臨床経験を活かし、日本歯科大学生命歯学部生化学講座で豊富な教員経験を持つ教員が、人体機能における基礎的な学びを講義する。【研究】がん発生のメカニズムの解明
目的	生物学、化学の基本を理解し、歯科衛生士の実務に応用できるようになる。
科目概要	患者の全身症状を良好に導けるよう、人体機能を理解する上で必要な基礎の理解を深める。
到達目標	生命を分子レベルから細胞、個体に至るまでの生命化学を理解する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）89点～80点B（3.0）79点～70点C（2.0）69点～60点D（1.0）59点以下を不合格とする。（　）は、GPA。 欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超えるものは試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事前・事後学習として、Teamsでの配布の講義プリントを再読すること。授業の最後に小テスト・練習問題を行い、授業で得た知識の確認を行う。授業はオンデマンド配信と対面方式で行う。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】講義時に配布		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	人体の概要について理解する	講義	人体の概要 ・人体の発生と成長 ・人体の構成 ・からだの各部の名称
2	細胞の構造について理解する	講義	細胞 ・細胞の構造と機能 ・細胞膜の働き ・細胞分裂の仕組み ・細胞小器官の名称と機能
3	遺伝について理解する	講義	遺伝 ・ 染色体と遺伝子の構造と機能 ・ DNAの複製の仕組み ・ 遺伝情報の伝達とタンパク質合成の仕組み
4	無機化合物について理解する	講義	無機化合物 ・生体を構成する無機成分と微量元素の役割を理解する。
5	有機化合物について理解する	講義	有機化合物 ・分子の性質や構造が変化する反応を化学的に知り、有機化合物にみられる特徴を理解する。
6	アミノ酸とタンパク質について理解する	講義	アミノ酸とタンパク質 ・生体をつくる主要な機能物質であるタンパク質とそれを構成するアミノ酸について理解する。
7	糖質と脂質について理解する	講義	糖質と脂質 ・ヒトの生活や生体エネルギー産生に密接に関連する糖質の特徴について理解する。 ・生体膜や脂肪を構成する脂質の種類と生体内での働きを理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	医療倫理	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	尾﨑　哲則
		授業形態	講義		有		
（英）	Medical Ethics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木/5.6限

講師紹介	歯科医師としての多様な経験と豊富な教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 日本大学客員教授。地域保健学、医療管理学を専門とする。 多くの学会・研究機関でヒトを対象とした医学研究倫理審査委員会の設立・運営に関わってきた。
目的	将来、歯科衛生士として国民の保健医療福祉に関わるにあたり、必要な歯科保健医療における医療倫理について専門的知識の習得および倫理観の育成を目的とする。
科目概要	医の倫理の原則を学び、倫理的判断に基づいた行動ができるよう理解を深める。
到達目標	インフォームド・コンセント及びセカンド・オピニオンについて説明できる。 医の倫理に関する国際規定について概説できる。 生命倫理（Bioethics）の成り立ちおよび原則論について説明できる。 ターミナル・ケアのありかたを概説できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科医療倫理（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業の後半に小テストを行う。次回授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に受けることができる。この時間に20分程度要することが想定される。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生士と医療倫理	講義	これからの歯科医療現場で、歯科衛生士が医療倫理を学ぶ必要性を知る。 わが国の歯科衛生士には、法的にあるいは倫理的にどのようなことが必要とされているか、その条件について理解する。 倫理で必要とされる用語について説明できる。
2	医師中心の医療から患者中心の医療へ	講義	患者の権利と患者の自己決定権について説明できる。 わが国における「患者の権利」の概説できる。 倫理・法的理解に必要な用語について説明できる。
3	インフォームド・コンセント	講義	インフォームド・コンセントについて説明できる。 パターナリズムとの違いについて理解する。 患者の同意に伴う自由について理解する。 セカンド・オピニオンについて説明できる。
4	医の倫理にかかわる国際的な規範	講義	医の倫理に関する国際規定には、「ヒポクラテスの誓い」からジュネーブ宣言・ヘルシンキ宣言・リスボン宣言とさまざまなものがある、これらについて概説できる
5	臨床での医療倫理における判断	講義	現代日本社会の道徳・倫理・習慣そして法律との差異について学ぶ。 生命倫理（Bioethics:バイオエシックス）の成り立ちおよび原則論について説明できる。
6	生命の始まりと終わり、子どもを持つ権利	講義	現代における人権の重要な項目のひとつに、リプロダクティブ・ライトがあるが、このことについて母性の観点から考える。死を、従来の日本ではどのようにとらえてきたか、また西欧諸国（主にキリスト教国家）ではどのようであったかについて知る。 ターミナル・ケアをひとつのキーワードに人の一生のあり方について説明できる。
7	医療倫理のまとめ	講義	医療とは何であり、医学とはどこが違うのかなど、医療の位置づけについて概説できる。 医療は、誰のために、どのような目的をもって行われるかについてて概説できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	キャリアデザイン講座Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	岩佐　浩之
		授業形態	講義		無		
（英）	Career Education Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	月/5.6限

講師紹介	一部上場企業メーカー勤務にて、製造から営業までの経歴をもち、現在3社を経営、社員教育・採用などを行う講師。 社会人として自己のキャリア設計を考え選択ができるように授業を行う。
目的	社会人としてキャリア選択に必要とされる自ら考える力と、考え方の基となる状況分析能力を学び身につけることによって、自らのキャリアをデザインできるようになる。
科目概要	キャリア選択に必要な、主体性とコミュニケーション力を通じて、最適な選択ができるために必要な行動指針について理解を深める。
到達目標	自分の心の癖を知る方法を学び、自分を知り、楽しい人生を送れるようになる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	なし	事前事後学習とその内容	日常生活の中での事象を意識し感じ、考えることを意識する。毎回の講義の終わりにその日の講義内容の理解度を確認するために5分程度の小テストを行う。
参考図書	なし		
特記事項	【定期試験】配付プリント、小テストを中心に出題		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	講師自己紹介 授業の流れと到達点	講義	なぜ歯科衛生士なのか良い点悪い点について理解できるようになる。 2回～7回までの授業概要について知る。
2	自分の人生の中での 歯科衛生士の位置づけ	講義	目標とは何かを理解し、目標設定ができるようになる。 なぜ到達点や目標が必要なのか理解する
3	コミュニケーションとは何か ・自分とのコミュニケーション ・1対1のコミュニケーション	講義	コミュニケーションの基本、人脈の整理の仕方　作り方について理解する。 なぜチームコミュニケーションが必要なのか理解する。
4	キャリアの形成 勤労職業の形成 収入の種類（経済的な健康）	講義	時代の変化とキャリアの変化について理解する。 何のために働くのかを見つける。 クワドラント（収入の種類）について理解する。
5	心理学（コトラー） 心の健康	講義	外因性　内因性　心因性それぞれの原因について理解する。 カウンセラーの技術を理解する。（受容　共感　など）
6	身体的健康	講義	健康とは何か、どのような状態を指すのか理解する。
7	1回から6回までの振り返りとまとめ	講義	振り返りをし定期試験のポイントを確認する。
8	マーケティング	講義	自分自身を社会にどう売り出していくか理解する。 セグメンテーションできるようになる。
9	情報分析	講義	判断や考え方のきっかけになる情報分析を理解する。
10	行動する	講義	頭脳、感情、行動する、考え方のバランスを理解する。
11	決断する	講義	自分の人生にオーダーを出し、それを手に入れるための自己研鑽について考える。
12	習慣と潜在意識	講義	間を置いた反復の力と潜在能力について理解する。
13	心の癖・自己覚知	講義	心理テストなどで、自分の心の癖を理解する。
14	8回から13回までの振り返りとまとめ	講義	振り返りをし定期試験のポイントを確認する。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	患者接遇教育	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	澤田　明子
		授業形態	講義		有		
（英）	Patient　communication	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	火/5.6限

講師紹介	専任教員　歯科衛生士である教員が、臨床経験・実務経験を踏まえ、歯科衛生士として必要な患者接遇の講義を行う。
目的	チーム歯科医療の一員として歯科衛生士が活躍するために、対象者を理解することに視点をおき、必要な基礎知識を修得する
科目概要	医療人として、患者視点のコミュニケーションスキル・知識を学び、実践できる
到達目標	・歯科衛生士をめざす上で、知識の習得に必要な技法を身につける ・社会人としての身構え、気構え、心構えを学ぶ ・チームで働く際に必要となるコミュニケーションスキルを理解し身につける
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	入学前から始める！歯科衛生士の基礎知識（滋慶出版）	事前事後学習とその内容	シラバスから授業内容を読みとり、発言など主体的に授業に参加する心構えをつくる。
参考図書	別途、授業内で紹介する		
特記事項	必要に応じてプリントを配布する		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	患者接遇とは	講義	患者が置かれている状況と歯科衛生士に求められる対応 接遇を求められる理由とスキルの磨き方
2	技法の習得に必要な知識①	講義	患者が置かれている状況と歯科衛生士に求められる対応を実践をとおして学ぶ 口腔内審査に必要な歯式の取り方、略号確認について
3	相互実習への準備①	講義	相互実習に臨むにあたり、リクルートスタイルについて理解する 海外で活躍した歯科衛生士から海外事情や本校の国際ゼミについて学ぶ
4	相互実習への準備②	講義	1-3年合同実習の目的と目標を理解するとともに、クラスの少人数グループ内でこれを共有することにより新たな方法を発見、活用していく 1-3年合同実習に臨むにあたり、歯科衛生士の役割と患者の関わりを確認し、自分の価値観や思考の特性に気づき、成長していくための目標を立てる
5	技法の習得に必要な知識②	講義	3学年相互実習に臨むにあたり、成長していくために立てた目標について患者役の視点から考え、自身のなりたい将来像にを明確にする（う蝕とPH）
6	企業で働く歯科衛生士を知る	講義	（株）YDM/モリタ様　講演予定　企業で働く歯科衛生の魅力や将来像について考える
7	企業で働く歯科衛生士を知る	講義	（株）YDM/モリタ様　講演予定　企業で働く歯科衛生の接遇を体験し学ぶ
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科英語	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	内田　愛
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental English	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木/5.6限

講師紹介	イギリス文学専攻。非常勤講師として、大学や専門学校で一般英語、TOEIC対策、英米文学、歯科英語などの実務経験を有した教員が、歯科衛生士に必要な歯科英語を講義する。
目的	実際に歯科クリニックで使用される英会話を扱ったテキストを読み、聞き取り、発音することによって、歯科衛生士として知っておくべき実用的な英語知識・能力に磨きをかけること。また、将来、英語を勉強しなければならない状況が生じることを予想し、どのように英語を独学すればいいかという方法論を自分で探し出すことができるようになること。
科目概要	実際の歯科クリニックで使用される場面を想定しての英語での会話、表現を学ぶ。
到達目標	テキストで学んだ表現を理解し、発話出来るようになる。テキストで学んだ語彙を覚え、必要なときには使いこなすことが出来るようになる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科英語(医歯薬出版)	事前事後学習とその内容	【事前学習】15分～30分程度。取り上げる章の中の分からない単語の意味を調べておく。 【事後学習】15分～30分程度。テキスト内のダイアログをスラスラ読めるまで音読、使える表現を覚えるようにする。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	電話予約で使われる英語を理解する	講義	1:（歯科）英語を使うこととは？ 英語の勉強法など 2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
2	薬を求める患者さんへの英語での対応ができるようになる	講義	1:前回の振り返り　2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
3	緊急の予約に使われる英語を理解する	講義	1:前回の振り返り　2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
4	国民健康保険に関する英語表現を熟知する	講義	1:前回の振り返り　2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
5	英語で患者さんに症状を聞き出すことができるようになる	講義	1:前回の振り返り　2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
6	病歴に関連した英語を理解できるようになる	講義	1:前回の振り返り　2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
7	英語で歯周病について患者さんに説明できるようになる	講義	1:前回の振り返り　2:重要語句・表現の確認　3:本文の分析　4:本文の聞き取り、読み
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	中村　雅典
		授業形態	講義		有		
（英）	Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	月/5.6限

講師紹介	歯科医師として東北大学病院での臨床経験を有した講師が、大学での教育経験を活かし歯科衛生士に必要な解剖学を講義する。 【所属】昭和大歯学部 客員教授、日本歯科大学生命歯学部 客員教授 【専門分野】解剖学・組織学 【所属学会】日本解剖学会、歯科基礎医学会等
目的	講義では、異常についても触れながら、基本的正常構造に関する知識の習得を目指す。
科目概要	正常な人体の構造を理解することは、疾患等の異常を知るための基本的知識である。本コースでは、歯科衛生士として必要な人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本的事項を習得する。
到達目標	歯科衛生士として必要な人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本を理解する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	人体の構造と機能1（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖学概論	講義	解剖学の種類、人体の構成と区分、解剖学用語、体の方向用語について理解する。
2	細胞の基本構造	講義	細胞の中にある基本的構造（細胞内小器官）と機能、ならびに細胞分裂について理解する。
3	組織の分類	講義	身体を構成する組織の種類とその機能を理解する。
4	個体発生	講義	精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育について理解する。
5	骨	講義	体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。
6	筋	講義	筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。
7	脈管	講義	脈管系の基本的な構造と機能を理解し、全身の血管系の名称を理解する。
8	消化器系	講義	消化器系の基本構造、機能及び各部の名称について理解する。
9	呼吸器系	講義	呼吸器系の基本構造と機能について理解し、各部の名称を理解する。
10	泌尿生殖器系	講義	泌尿器及び生殖器の機能形態を理解し、各部の名称を理解する。
11	内分泌系	講義	内分泌系について、機能と解剖学的な名称を理解する。
12	中枢神経系	講義	神経系について、基本的機能形態を理解するとともに、中枢神経系の名称と機能を理解する。
13	末梢神経系	講義	末梢神経系（運動神経、感覚神経、自律神経）の違いを理解し、全身に分布する神経の名称を理解する。
14	感覚器系	講義	感覚器の機能、形態及び名称を理解する。
15	定期試験		筆記試験

科目名	生理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	壇辻　昌典
		授業形態	講義		有		
（英）	Physiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5,6限

講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な生理学を講義する。 【所属（大学・医院】昭和大学歯学部口腔生理学講座 【専門分野】口腔生理学 【所属学会】日本生理学会　歯科基礎医学会 【研究・執筆】5-HT2A receptor activation enhances NMDA receptor-mediated glutamate responses through Src kinase in the dendrites of rat jaw-closing motoneurons The J physiology
目的	生体の様々な臓器や器官の分布や内臓各器官の構造について理解し、歯科臨床に応用できるようになる。
科目概要	口腔領域の疾患の診断、治療の基礎となる知識を身につけるために、細胞、組織、臓器の機能とそのメカニズムの理解を深める。
到達目標	生体の恒常性を維持するしくみを説明できる。 細胞・組織の構造と機能を説明できる。 各臓器の構造と機能を説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）89点～80点B（3.0）79点～70点C（2.0）69点～60点D（1.0）59点以下を不合格とする。（　）は、GPA。 欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超えるものは試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	人体の構造と機能1（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞	講義	細胞の基本的生理機能を解説する。
2	筋と運動	講義	骨格筋の構造と収縮機序を解説する。 心筋と平滑筋の構造と収縮機序を解説する。 運動ニューロンの働きと反射を解説する。
3	消化と吸収	講義	主要な消化器官と消化酵素の機能を解説する。 消化液と消化管運動の調節機構を解説する。
4	循環	講義	体循環、肺循環を解説する。 血圧の調節機序を解説する。 心臓の収縮の仕組みを解説する。 ショックの種類と症状を解説する。
5	血液	講義	血液成分の機能を解説する。 止血と血液凝固の機序を解説する。 血液型と輸血について解説する。
6	神経	講義	神経系の基本的機能を解説する。 中枢神経系の構造と各部位の動きを解説する。 自律神経系の特徴を解説する。
7	呼吸	講義	呼吸の意義を解説する。 呼吸器の構造と機能を解説する。 肺胞と細胞におけるガス交換の仕組みを解説する。 呼吸運動の制御の仕組みを解説する。 体温調節の機構を解説する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	生化学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	山田　篤/矢野文子
		授業形態	講義		有		
（英）	Biochemistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	昭和大学歯学部教員での臨床経験や教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な生化学を講義する。 山田篤：【昭和大学歯学部口腔生化学講座】・【生化学・栄養学】・【日本骨代謝学会・歯科基礎医学会・日本口腔組織培養学会】・【骨代謝研究】 矢野文子：昭和大学歯学部口腔生化学講座/東京大学医学部附属病院整形外科　研究員　歯科医師、口腔外科認定医
目的	生命活動の概要として、生体における構成要素、中でも糖質、脂質、タンパク質について学ぶ。また、歯と口の生化学について学ぶ。
科目概要	I編、生命活動の概要では、生体の構成要素について学ぶ。II編、歯と口の生化学では歯と歯周組織の生化学および硬組織の生化学について学ぶ。
到達目標	①生体における構成要素について理解する ②生体における化学反応について理解する ③糖質、脂質、アミノ酸代謝について理解する ④生体における恒常性の維持について理解する ⑤歯と歯周組織の生化学について理解する ⑥ 硬組織の生化学について理解する
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	人体の構造と機能2.栄養と代謝（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】使用予定有り		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	I編1章；生体における構成要素	講義	生体における構成要素（教科書p6-22） 1. 細胞の役割 2. 生体構成成分と栄養素
2	I編2章；生体における化学反応	講義	生体における化学反応（教科書p23-28） 1. 消化と吸収 2. 代謝
3	I編3章；糖質代謝、脂質代謝	講義	糖質代謝、脂質代謝（教科書p29-37） 1. エネルギー代謝の全体像 2. 糖質代謝、脂質代謝
4	I編4章；タンパク質とアミノ酸代謝	講義	タンパク質とアミノ酸代謝（教科書p38-43） 1. タンパク質とアミノ酸の分解 2. タンパク質の合成
5	I編5章；生体における恒常性の維持	講義	生体における恒常性の維持（教科書p44-47） 1. 恒常性とは 2. 生体における恒常性の大切さ
6	II編1章；歯と歯周組織の生化学	講義	歯と歯周組織の生化学（教科書p50-64） 1. 歯と歯周組織 2. 結合組織 3. 歯
7	II編2章；硬組織の生化学	講義	硬組織の生化学（教科書p65-80） 1. 血清中のカルシウム 2. 石灰化の仕組み 3. 骨代謝
8	定期試験		

科目名	口腔解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	野中　直子
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	水/5.6限

講師紹介	歯科医師として大学附属病院にて臨床経験を有し、大学教員として経験豊富な講師が、口腔解剖学の講義を行う。 【所属】昭和大学歯学部口腔解剖学講座・教授 【専門分野】解剖学・口腔解剖学・歯牙解剖学 【所属学会】日本解剖学会・歯科基礎医学会・日本抗加齢医学会・国際歯科学士会など臨床での経験を踏まえ、口腔解剖学の重要な知識を臨床の場に繋げられるようにわかりやすく講義する。
目的	歯科衛生士として必要な口腔付近の解剖学を理解し説明できるようになる。
科目概要	顎・顔面・口腔領域の組織や器官の構造と機能について学び、歯科臨床に応用できるようになる。
到達目標	頭頚部の体表構造を説明できる。　咀嚼筋について説明できる。 頭蓋を構成する骨の名称を説明できる。　舌筋について説明できる。 表情筋について説明できる。　頚部の筋について説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	事前事後学習とその内容	毎回の講義終了後に小テストを行う。 予習・復習としてテキストを読み、理解できるところと理解できないところを見極める。 毎回の小テストはしっかり理解する。
参考図書	必要な資料に関しては、印刷し配布する。		
特記事項	頭蓋骨模型使用、6回・7回：歯列模型（乳歯・永久歯）使用		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	①　口腔とは	講義	口腔の範囲と各部位の名称を理解し、口腔前庭・固有口腔の位置関係とそこに存在する構造物を確認し理解する。
2	②　口腔を構成する骨 1. 頭蓋の概要	講義	頭蓋骨模型を使用しながら、頭蓋がどのような骨により構成されているか理解する。
3	2. 口腔を構成する骨	講義	頭蓋骨模型を使用しながら、口腔を構成する骨（上顎骨・口蓋骨・下顎骨・舌骨）について理解する。
4	③　頭頚部の筋と作用 1. 顔面筋、2. 咀嚼筋	講義	″顔の表情を作る顔面筋について理解する。咀嚼に関与する咀嚼筋（側頭筋・咬筋・内側翼突筋・外側翼突筋）の名称。起始（模型を使用しどこから付着がはじまるか）・停止（模型を使用しどこに停止するか）・作用（下顎骨の動き方）・神経支配について理解する。
5	乳歯	講義	乳前歯・乳臼歯の形態的特徴を理解する。
6	3. 舌筋、4. 頚部の筋、5. 顎下三角とオトガイ下三角、6. 翼突下顎隙と翼突下顎縫線	講義	舌筋の名称・起始・停止・作用と、頸部の筋、特に舌骨上筋群と舌骨下筋群の起始・停止・作用・神経支配について理解する。顎下三角・オトガイ下三角の構成、三角内に存在するものについて理解する。
7	口腔解剖：1，2，3，4，6回　まとめ	講義	まとめ、質疑応答。
8	④　顎関節	講義	顎関節の構造と機能について理解する。模型を用いてグループディスカッションを行う。
9	⑤　口腔に分布する脈管系 1. 動脈系	講義	頭頚部に分布する動脈について理解する。 大動脈弓からの枝を理解し、特に顔面、口腔、頭皮などに分布する外頚動脈について理解する。
10	⑤　口腔に分布する脈管系 2. 静脈系、3. リンパ系	講義	頭頚部の動脈と静脈の違いについて理解する。頭頚部のリンパ系について理解し、特に顎下リンパ節、オトガイ下リンパ節について理解する。扁桃について理解する。
11	⑥　神経 1）脳神経の概要 2）三叉神経	講義	脳神経の名称・性質・頭蓋から出る孔を頭蓋骨模型を使用し理解する。 三叉神経のうち口腔付近に関係する上顎神経・下顎神経について理解する。
12	3）顔面神経、4）舌咽神経、5）迷走神経 6）舌下神経	講義	口腔付近に関係する顔面神経・舌咽神経・迷走神経・舌下神経について理解する。
13	1. 頭頚部に分布する脊髄神経 2. 自律神経	講義	自律神経（交感神経・副交感神経）について理解する。
14	口腔解剖：8～13回　まとめ	講義	まとめ、質疑応答。
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯牙解剖学 （組織発生学含む）	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	野中　直子
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	月/5.6限

講師紹介	歯科医師として大学附属病院にて臨床経験を有し、大学教員として経験豊富な講師が、口腔解剖学の講義を行う。 【所属】昭和大学歯学部口腔解剖学講座・教授【専門分野】解剖学・口腔解剖学・歯牙解剖学 【所属学会】日本解剖学会・歯科基礎医学会・日本抗加齢医学会・国際歯科学士会など臨床での経験を踏まえ、口腔解剖学の重要な知識を臨床の場に繋げられるようにわかりやすく講義する。
目的	歯科衛生士として必要な歯の形態学的特徴・機能学的意義を理解するとともに、ヒトの個々の歯を鑑別することができるようになる。
科目概要	歯の役割と構造と機能について習得し、歯科臨床に応用できるようになる。
到達目標	ヒトの歯の名称・記号・歯式・歯数について説明できる。/乳歯と永久歯の違いについて説明できる。/歯の鑑別ができる。 歯の構造について説明できる。/歯の配列について説明できる。/ミュールライターの三徴候が説明できる。 永久歯の形態的特徴について説明できる。/歯の咬合について説明できる。/乳歯の形態的特徴について説明できる。/異常歯について説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯の解剖学(わかば出版)	事前事後学習とその内容	毎回の講義終了後に小テストを行う。 予習・復習としてテキストを読み、理解できるところと理解できないところを見極める。 テキストのまとめ問題と自己学習のための図を使用して復習で行う。
参考図書	最新歯科衛生士教本：口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		
特記事項	歯列模型（乳歯・永久歯）使用 必要な資料に関しては、印刷し配布する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の概論	講義	歯の解剖学入門、歯髄と歯髄腔について理解する。（歯の組織構造を除く）
2	永久歯（中切歯・側切歯・犬歯）	講義	上下顎前歯の形態学的特徴について理解する。 歯の模型を使用し学生相互で確認する。
3	永久歯（第一小臼歯・第二小臼歯）	講義	上下顎小臼歯の形態学特徴について理解する。 歯の模型を使用し学生相互で確認する。
4	永久歯	講義	上顎大臼歯の形態学的特徴について理解する。 歯の模型を使用し学生相互で確認する。
5	永久歯	講義	下顎大臼歯の形態学的特徴について理解する。 歯の模型を使用し学生相互で確認する。
6	歯の配列と咬合・異常歯	講義	歯の配列・咬合について理解する。異常歯について理解する。
7	歯牙解剖：まとめ	講義	まとめ、質疑応答（乳歯を含む）。
8	エナメル質	講義	エナメル質の特徴、構造について理解する。
9	象牙質、歯髄複合体	講義	象牙質、歯髄の特徴、構造について理解する。
10	セメント質、歯根膜、歯槽骨	講義	セメント質、歯根膜、歯槽骨の特徴、構造について理解する。
11	歯肉	講義	歯肉の特徴、構造について理解する。
12	歯の発生過程	講義	歯の発生過程について理解する。
13	歯の萌出、脱落と交換	講義	歯の萌出、脱落と交換について理解する。
14	顔面と口腔の発生	講義	顔面と口腔の発生を理解する。
15	定期試験		筆記試験

科目名	口腔生理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	中村　史朗
		授業形態	講義		有		
（英）	Physiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水/5,6限

講師紹介	歯科医師として大学附属病院での臨床経験を有し、大学教員として経験豊富な講師が歯科衛生士として必要な口腔生理学の講義を行う。 【所属（大学・医院】昭和大学歯学部口腔生理学講座 【専門分野】口腔生理学 【所属学会】日本生理学会　歯科基礎医学会　日本歯科医学教育学会 【研究】・【執筆】など　歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）、基礎歯科生理学第7版（医歯薬出版）
目的	顎顔面口腔領域の疾患の診療の基礎となる、顎顔面口腔領域の細胞、組織、器官の特徴と機能を理解し説明できるようになる。
科目概要	口腔領域の様々な器官の働きと機能、構造について理解し、歯科臨床に応用できるようになる。
到達目標	口腔領域の感覚機能の特徴を説明できる。 口腔領域の運動機能の特徴を説明できる。 唾液の分泌機構・性状・役割を説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）89点～80点B（3.0）79点～70点C（2.0）69点～60点D（1.0）59点以下を不合格とする。（　）は、GPA。 欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超えるものは試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	内分泌	講義	主要な内分泌腺の種類を解説する。 各内分泌器官から放出されるホルモンの機能を解説する。 尿の生成機構を解説する。
2	歯と口腔の感覚	講義	歯髄と歯根膜の感覚の特徴を解説する。 口腔粘膜の感覚の特徴を解説する。
3	味覚と嗅覚	講義	味覚の役割を解説する。 味覚受容器と味覚の伝達機構を解説する。 嗅覚の役割と特性について解説する。 嗅覚受容器と神経機構を解説する。
4	咬合と咀嚼・吸啜	講義	下顎位の種類を解説する。 下顎運動と関与する筋の種類を解説する。 顎反射の種類と特徴を解説する。 咀嚼能力の評価法を解説する。
5	嚥下と嘔吐	講義	嚥下に関わる器官を解説する。 嚥下時の食塊の動きを解説する。 嘔吐の機序と神経機構を解説する。
6	唾液	講義	唾液の分泌機構を解説する。 唾液分泌の神経性調節機構を解説する。 唾液の成分と機能を解説する。
7	発声	講義	発声機序を解説する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	病理学・口腔病理学　基礎	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	薄井　由枝
		授業形態	講義		有		
（英）	Basic Pathology & Oral Pathology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水/5.6限

講師紹介	日米2国において歯科衛生士として臨床経験を有し、国立感染症研究所等にて研究経験のある講師が、歯科衛生士として臨床に応用できる病理学および口腔病理学の基礎知識をわかりやすく講義する。　経歴；九州看護福祉大学　教授＆特任教授（2023年迄）
目的	「基礎」では、病気になった原因（病因）を探り、病気になった組織や身体に生じている変化（病変）が、どのようなものであるかを理解する。
科目概要	疾病についての基本事項を理解する。
到達目標	病因が人体に及ぼす変化を理解できるようになる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進1.病理学・口腔病理学	事前事後学習とその内容	教科書を中心とした授業を行うので予習を行うことで講義内容が理解しやすくなる。講義後は小テストを回答する。理解できなかった箇所は質問するなどして積極的に明らかにすること。
参考図書	なし		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第1章　病理学序論と病因論 第2章　遺伝性疾患と先天異常	講義	病理学の入門である病因論を学ぶ。疾患の多様性と共通性について理解する。遺伝性疾患や奇形の発生について理解する。
2	第3章　循環障害	講義	血液やリンパの循環が阻害され臓器や組織に障害が生じてしまうことを循環障害という。その症状である充血・鬱血・虚血・出血・血栓症・塞栓症・梗塞・浮腫等を理解する。
3	第4章　代謝障害と退行性病変	講義	代謝障害における細胞病変について理解する。特に退行性病変、変性・萎縮・壊死を学ぶ。
4	第5章　増殖と修復	講義	刺激や傷害に対する能動的な生体反応である進行性病変、肥大・増生・化生を学ぶ。さらに、組織の再生と修復を理解する。
5	第6章-1 炎症	講義	炎症とは生体に対する刺激や侵襲によって生じる局所的反応の一種であり、生体を守るための反応である。その原因や機序および臨床症状を理解する。
6	第6章-2 免疫応答異常	講義	免疫応答のメカニズムを学び、アレルギーなどの免疫応答異常の機序や臨床症状を理解する。
7	第7章　腫瘍	講義	腫瘍の原因や発生機序を学び代表的な腫瘍について理解する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	病理学・口腔病理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	薄井　由枝
		授業形態	講義		有		
（英）	Pathology & Oral Pathology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水/5.6限

講師紹介	日米2国において歯科衛生士として臨床経験を有し、国立感染症研究所等にて研究経験のある講師が、歯科衛生士として臨床に応用できる病理学および口腔病理学の知識を講義する。　経歴；九州看護福祉大学　教授＆特任教授（2023年迄）
目的	顎口腔領域に発生するさまざまな病変について習得し、歯科臨床に応用できるようになる。
科目概要	硬組織と軟組織で構成される顎口腔領域におけるさまざまな疾患の特徴を理解する。
到達目標	多様な顎口腔領域の病気の原因および発生機序や臨床所見について理解する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進1.病理学・口腔病理学	事前事後学習とその内容	教科書を中心とした授業を行うので予習を行うことで講義内容が理解しやすくなる。講義後は小テストを回答する。理解できなかった箇所は質問するなど積極的に明らかにすること。
参考図書	なし		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第1章　歯の発育異常 第11章　口腔領域の奇形	講義	歯の発育異常の種類について学び、その因子について理解する。また口腔の形成不全に関わる傷害について理解する。
2	第2章　歯の損傷と着色・付着物 第3章　う蝕	講義	萌出後の歯の損傷について学ぶ。歯の沈着物の病原性について理解する。さらに、う蝕発生の要因や疫学を理解する。
3	第4章　象牙質・歯髄複合体の病変（p109迄）	講義	歯髄炎の分類やその原因および臨床病態について理解する。
4	第5章　歯周組織の病変（p110から）	講義	歯周病の分類（歯肉炎・歯周炎）と原因および病態について理解する。
5	第6章　口腔粘膜の病変 第10章　唾液腺の病変	講義	口腔粘膜や唾液腺に生じる病変について理解する。
6	第7章　口腔領域の嚢胞と腫瘍 第8章　口腔癌	講義	嚢胞や腫瘍の定義を学ぶ。特に口腔領域に発生する嚢胞や腫瘍について理解する。
7	第9章　顎骨の病変 第12章　口腔組織の加齢変化	講義	顎骨に生じる炎症や異形成について学ぶ。さらに加齢による高齢者の口腔内所見を理解する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	隣接医学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	竹内　麗理
		授業形態	講義		有		
（英）	Adjacent Medical Discipline	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5,6限

講師紹介	歯科医師として、臨床経験を有し、国際医療ボランティア活動に従事する講師が、歯科医療に関連する内科疾患について講義する。 【所属】日本大学松戸歯学部 【専門】生化学・薬理学・国際医療貢献 【学会】IADR・歯科基礎医学会・薬理学会・歯科医学教育学会 【研究】口内炎・薬物性歯肉肥厚 【社会活動】日本歯科保健医療国際協力学会副理事長
目的	歯科診療に必要な内科疾患の知識を習得する。
科目概要	歯科診療が可能かどうかを判断するために、必要な症候の種類とそれに対応する疾患の種類と特徴を理解し、習得する。歯科診療中の緊急事態を事前に回避するため、または、それに対応するための知識を習得する。
到達目標	全身および口腔顎顔面の診方を説明できる。 循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・肝疾患・腎疾患・代謝疾患・内分泌疾患・血液疾患・神経/筋疾患・自己免疫疾患を説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科衛生士のための口腔内科（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業終わりに小テストを行うため、各授業の後半に演習時間を設ける。また、授業を受ける前に教科書を音読すると、授業内容を理解しやすくなる。長期休暇や授業の進行状況に応じて別途課題を課する。
参考図書	歯科衛生士のための口腔内科　歯学生のための内科ビジュアライズ		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いる場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	患者の全身状態を把握し、全身疾患を推察しよう	講義	患者の姿勢と歩行状態の観察ポイントを理解し覚える。 全身の診かたと口腔顎顔面の診かたを理解し覚える。 感染症患者の歯科診療と院内感染対策について理解し覚える。
2	心臓や血管の病気に詳しくなろう	講義	循環器疾患（心不全、心筋梗塞、狭心症、心臓弁膜症、先天性心疾患、感染性心内膜炎、不整脈、高血圧、等）の種類と症状を理解し覚える。
3	肺や胃腸の病気に詳しくなろう	講義	呼吸器疾患（気管支喘息、COPD、肺炎、肺血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群、肺結核、等）の種類と症状を理解し覚える。 消化器疾患（胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、等）の種類と症状を理解し覚える。
4	肝臓や腎臓の働きは何だろう これが病気になるとどうなるの	講義	肝臓の働きを理解し覚える。 肝疾患（肝炎、肝硬変、等）の種類と症状を理解し覚える。 腎臓の働きを理解し覚える。 腎疾患（慢性腎臓病、腎炎、ネフローゼ症候群、等）の種類と症状を理解し覚える。
5	生活習慣病を知ろう	講義	代謝疾患（糖尿病、骨粗鬆症、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、ビタミン欠乏症・過剰症、等）の種類と症状を理解し覚える。 甲状腺疾患の種類と症状を理解し覚える。
6	血液の病気に詳しくなろう	講義	血液疾患（貧血、出血性素因、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、等）の種類と症状を理解し覚える。
7	脳の病気に詳しくなろう 免疫による病気とは	講義	神経/筋疾患（脳血管障害、パーキンソン病、てんかん、等）の種類と症状を理解し覚える。 自己免疫疾患の種類と症状を理解し覚える。
8	定期試験		筆記試験

科目名	微生物学・口腔微生物学 基礎	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	桝田　和彌
		授業形態	講義		無		
（英）	Basic Microbiology・Oral Pathology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水/5.6限

講師紹介	微生物学の専門的知識と実務経験を有する講師が、歯科臨床に必要な細菌やウイルスに対する知識と、感染予防対策について講義する。 所属【昭和女子大学】・専門分野【微生物学】・所属学会【農芸化学会、乳酸菌学会】 研究内容【細菌を中心とした微生物の機能解析や食品中の細菌叢網羅的解析】など
目的	う蝕や歯周病が何故発生するのかを理解するため、その原因となる微生物について基本的な知識を習得することを目的とする。
科目概要	何故、微生物によってう蝕や歯周病が発生するのか、歯科衛生士としてその原理を理解すべく、そもそも微生物とはどのような生物であるのか、食品に存在する微生物など身近な例を踏まえて、微生物の基礎的な知識を習得すべく講義を行う。
到達目標	・微生物の種類について説明ができる。 ・微生物の病原性や感染について説明ができる。 ・微生物の細胞構造について説明ができる。 ・微生物の生育や代謝について説明ができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前の準備として、教科書の講義で扱うテーマに該当する部分に目を通し、わからない単語などを調べておく。 また、講義の初めに、前回の復習として小テストを行う。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】授業開講時に配布		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	・なぜ微生物学を学ぶ必要があるのか？ ・微生物がどのような生物か定義を理解する ・微生物の種類を理解する ・生物の分類、命名法を理解する	講義	微生物とは何者なのか？ 肉眼では見ることができないような生物にもかかわらず、時に人間は微生物に助けられ、時に殺され、良くも悪くも人間の生活に多大な影響を及ぼす微生物という生物について、どのような生物であるのか、種類など微生物の基礎的な分類について講義を行います。
2	・細菌とはどのような微生物か理解する ・細菌の細胞の構造、各器官の役割を理解する	講義	日常的に〇〇菌と使いがちですが、菌とウイルスの違いが分かる人は限られています。 前回の講義で学んだ、微生物の種類を元に歯科衛生士が微生物の中でも最も理解しておくべき細菌という生物について、他の微生物と何が違うのか、細菌の細胞構造を中心に講義を行います。
3	・細菌の代謝の流れを理解する ・う蝕と細菌の代謝の関係を理解する ・細菌の増殖方法、増殖曲線について理解する	講義	極めて小さい細菌も、我々人間と同様に生活を営んでいます。その細菌の一生を確認していきます。また、細菌からすれば生活しているだけですが、一方、人間にはう蝕という悲劇をもたらします。何故このようなことが起きてしまうのか説明していきます。
4	・真菌とはどのような微生物か理解する ・真菌の細胞構造、各器官の役割を理解する ・ウイルスとはどのような微生物か、構造、増殖法について理解する	講義	細菌以外の微生物はどのような特徴を持っているのか。真菌とウイルスを例に細胞構造を中心に講義を行います。特にウイルスは、日常的に、あるいは歯科衛生士として生きていくうえで感染する恐れがある微生物です。どのようにして、我々の体内でウイルスは増殖していくのかを中心に学びます。
5	・微生物の培養方法について理解する ・微生物の観察方法（顕微鏡の種類）を理解する　・感染症とは何か理解する ・感染症が成立するまでの流れを理解する	講義	ミュータンス菌はよく聞く名前だと思います。一方、自身の目で見たことはあるでしょうか。 微生物は1つ1つ肉眼では確認できませんが、微生物を人工的に飼育し、集団にすると観察することが可能です。 本講義ではその微生物の飼育方法や観察方法を中心に講義を行います。
6	・感染症の分類方法を理解する ・感染経路の分類を理解する	講義	人類の歴史は、感染症との戦いの歴史とも言われます。 原因となる病原微生物はどのようにして我々に近づいてくるのか、一方、その道筋さえ分かっていれば防御することも可能です。本講義では、我々の生活を脅かす微生物の感染経路を中心に講義を行い、ヒトが感染症を発症するまでの過程を学びます。
7	・微生物の病原性とは何か理解する ・微生物の病原因子とその特徴を理解する	講義	巷では善玉菌や悪玉菌といった呼ばれ方をすることが多い微生物ですが、そもそも悪玉菌は何故悪なのか？ 病気を引き起こすような微生物は、他の微生物と何が違うのか、病原微生物を中心に病原因子の種類や機能について講義を行います。
8	定期試験		筆記試験

科目名	微生物学・口腔微生物学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	桝田　和彌
		授業形態	講義		無		
（英）	Microbiology・Oral Pathology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	微生物学の専門的知識と実務経験を有する講師が、歯科臨床に必要な細菌やウイルスに対する知識と、感染予防対策について講義する。 所属【昭和女子大学】・専門分野【微生物学】・所属学会【農芸化学会、乳酸菌学会】 研究内容【細菌を中心とした微生物の機能解析や食品中の細菌叢網羅的解析】など
目的	う蝕や歯周病が何故発生するのかを理解するため、その原因となる微生物について基本的な知識を習得することを目的とする。
科目概要	何故、微生物によってう蝕や歯周病が発生するのか、歯科衛生士としてその原理を理解すべく、そもそも微生物とはどのような生物であるのか、食品に存在する微生物など身近な例を踏まえて、微生物の基礎的な知識を習得すべく講義を行う。
到達目標	・代表的な病原ウイルスの特徴が説明できる。 ・自然免疫と獲得免疫について説明ができる。 ・ストレプトコッカス・ミュータンスが何故う蝕の原因になるのか説明できる。 ・歯周病の原因細菌が説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前の準備として、教科書の講義で扱うテーマに該当する部分に目を通し、わからない単語などを調べておく。 また、講義の初めに、前回の復習として小テストを行う。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】授業開講時に配布		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	・食中毒の分類を理解する ・食中毒の発生状況を理解する ・代表的な病原細菌の特徴を理解する1 1. 黄色ブドウ球菌	講義	身近でも起こり得る食中毒は、様々な原因によって発生する。日本の食中毒の発生状況や原因を理解するため、本講義では、食中毒の分類や食中毒の発生状況について講義を行う。
2	・代表的な病原細菌の特徴を理解する2 1. 腸管出血性大腸菌 2. カンピロバクター 3. ボツリヌス菌、リケッチア、クラミジア	講義	食中毒の中でも注目度の高い食中毒を中心に取り上げ、原因となる微生物の特徴、原因食品や症状などについて講義を行う。
3	・代表的な病原ウイルスの特徴を理解する1 1. ヒト免疫不全ウイルス 2. 肝炎ウイルス 3. ノロウイルス	講義	専門学校への入学に伴い、様々な病原微生物に対する予防接種を行う。前クォーターでの一般的な微生物の病原性の講義に基づき、本講義では歯科衛生士として働く上で必ず付きまとうB型肝炎やヒト免疫不全ウイルスといった具体的なウイルスの特徴について講義を行い、自身の身を守る知識を養う。
4	・代表的な病原ウイルスの特徴を理解する2 4. 口腔内に症状がみられるウイルス ・代表的な真菌の特徴を理解する ・生物の物理的防御	講義	ウイルスや真菌の中には口腔内に症状がみられるものが存在することから、口腔内の変化を見落とすことがないよう、それらの微生物の特徴や口腔内の症状について講義を行う。また、ヒトは様々な病原微生物の脅威に晒されて生活している状態であることから、そのような病原微生物に対抗する手段の1つである物理的防御について講義を行う。
5	・免疫学 1. 自然免疫 2. 獲得免疫と抗体の特徴 3. 液性免疫と細胞性免疫 4. アレルギー	講義	ヒトはどのように微生物と戦っているのか、その仕組みのである自然免疫と獲得免疫の基本的な特徴について講義を行う。また、花粉症をはじめとしたアレルギーは、本来自身を守っている免疫が原因になる。なぜ、身を守るための免疫が自身を傷つけてしまうのか、歯科治療と切っても切り離せないアレルギーの種類を中心に知識を深める。
6	・口腔微生物学1 1. 微生物にとっての口腔環境 2. ペリクルの役割 3. デンタルプラークの種類と構成細菌	講義	最近、腸内細菌が非常に注目を集めているが、実は腸内細菌以上に複雑と考えられているのが口腔内の微生物たちである。腸管よりもはるかに狭い口腔内が、微生物の宝庫になっているのは何故なのか。微生物にとっての口腔環境やプラーク形成を中心に講義を行う。
7	口腔微生物学2 1. う蝕の発生機序を理解する。 2. う蝕に関わる微生物の特徴を理解する。 3. 歯周病に関わる微生物の特徴を理解する。	講義	ストレプトコッカス・ミュータンスが名指しでう蝕の原因細菌とやり玉に挙げられるのはなぜか。答えは他の微生物にはみられないミュータンスの性質にある。本講義ではその特徴について説明し、う蝕の発生機序について理解を深める。また、もう1つの口腔内の重要疾病である歯周病について原因となる微生物の特徴を中心に講義を行う。
8	定期試験		筆記試験

科目名	栄養学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	笹　清人/矢野　文子
		授業形態	講義		有		
（英）	Natrition	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木/5.6限

講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な栄養学を講義する。 矢野文子:【昭和大学歯学部口腔生化学講座】・【生化学・栄養学】・【日本骨代謝学会・歯科基礎医学会】・【骨代謝研究】 笹清人:【昭和大学歯学部口腔生化学講座】・【生化学・栄養学】・【日本骨代謝学会・歯科基礎医学会・日本口腔組織培養学会】・【骨代謝研究】
目的	栄養学を学ぶことで栄養指導を含めた体調管理を行える歯科衛生士の育成を目的とする。
科目概要	Ⅱ編、歯と口の生化学では、口腔に特徴的な唾液、プラークに着目し、その構成成分やそこで生じる現象を生化学的に学ぶ。Ⅲ編、Ⅳ編、栄養の基礎と栄養指導および食生活と食品に関して理解する
到達目標	①唾液の生化学について理解する　②プラークの生化学について理解する　③栄養の基礎知識について理解する ④食事摂取基準について理解する　⑤栄養素の働きについて理解する　⑥食生活と健康について理解する　⑦食べ物と健康について理解する
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 (　)は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	人体の構造と機能2.栄養と代謝（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】使用予定有り		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	Ⅱ編3章;唾液の生化学について理解する （Ⅰ； 唾液の組成と機能）	講義	唾液の組成（無機質、有機質等）のそれぞれの機能（教科書p81-88） 1. 唾液の組成と生理的機能について理解する。
2	Ⅱ編4章;プラークの生化学について理解する (プラークの生物活性、プラークによるう蝕発症機構、プラークによる口臭発症機構、歯周疾患発症機構）	講義	Ⅰ； プラークの生物活性、Ⅱ； プラークによるう蝕発症機構、Ⅲ； プラークによる口臭発症機構、Ⅳ； 歯周疾患発症機構（教科書p90-112） 1. プラークの生化学について理解する。
3	Ⅲ編1章;栄養の基礎知識について理解する （Ⅰ； 食生活と栄養、Ⅱ； 栄養素の消化・吸収）	講義	Ⅰ； 食生活と栄養、Ⅱ； 栄養素の消化・吸収（教科書p116-126） 1. 近年の日本人の栄養摂取状況を説明できる。 2. 体格指数（BMI）の計算ができる。 3. 栄養素の消化と吸収について理解する。
4	Ⅲ編2章;食事摂取基準について理解する （Ⅰ； 推定エネルギー必要量、Ⅱ； 基礎代謝、Ⅲ； 日本人の食事摂取基準）	講義	Ⅰ； 推定エネルギー必要量、Ⅱ； 基礎代謝、Ⅲ； 日本人の食事摂取基準(p128-139) 1. 3大栄養素のエネルギー量が説明できる。 2. 推定エネルギー必要量が計算できる。 3.「日本人の食事摂取基準」の各指標が説明できる。
5	Ⅲ編3章;栄養素の働きについて理解する	講義	Ⅰ； 糖質の栄養的意味、Ⅱ； タンパク質の栄養的意味、Ⅲ； 脂質の栄養的意味、Ⅳ； ビタミンの栄養的意味、Ⅴ； ミネラルの栄養的意味、Ⅵ； 水の栄養的意味、Ⅶ； 食物繊維の栄養的意味(教科書p140-174)
6	Ⅳ編1章;食生活と健康について理解する。	講義	国民の健康と栄養、望ましい食生活、ライフステージ別の栄養と調理（p178-201） 1. 日本人の死因の順序　2. 現代の国民栄養の課題を説明　3. 国民健康・栄養調査、健康日本21（第二次）、食事バランスガイド　4. 特別用途食品、食育基本法　5. ライフステージ別の栄養と調理
7	Ⅳ編2章;食べ物と健康について理解する。	講義	食品の成分と分類、食べ物の物性（教科書p203-210） 1. 3色食品群、6つの基礎食品について理解する。 2. 5つの基本味を説明できる。
8	定期試験		筆記試験

科目名	口腔衛生学 基礎	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	福田　雅臣
		授業形態	講義		有		
（英）	Basic Oral Hygiene Study	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	火/5.6限

講師紹介	歯科医師であり、重度心身障害児施設での臨床経験を有し、大学教員として経験豊富な講師が、口腔衛生学について講義する。 福田　雅臣:日本歯科大学生命歯学部衛生学講座教授　専門分野：口腔衛生学　日本口腔衛生学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会 社会歯科学学会所属
目的	歯科衛生士が行う歯科予防処置および保健指導の基礎知識として、歯・口腔の正常な状態と機能を理解し、歯・口腔に起こる健康障害について十分な知識をもち、疾患の発生阻止や予防、健康増進の方法を身につける。
科目概要	口腔の疾患の予防や、健康増進のための知識を習得し、歯科臨床に応用できるよう理解を深める。
到達目標	歯・口腔の健康状態と異常が説明できる。 う蝕発生要因、う蝕の活動性、う蝕予防法の実際を説明できる。 フッ化物の基礎的知識、毒性、応用法を説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	保健生態学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	授業前事前に教科書で次回の内容の項目だけでよいので確認をしておくこと。また毎回の授業終わりに小テストを実施する。 可能ならば、授業で配布したプリントの要点を整理する。
参考図書	別途、授業内で紹介する。		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔衛生学の概要	講義	WHOの健康の概念及び、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションの実例も含め学んでいき、口腔衛生学が扱う領域を理解する。 予防医学の概念を理解する。
2	歯・口腔の構造	講義	歯・歯周組織の構造について理解する。 口腔の他の組織の構造ついて理解する。 唾液腺の種類、特徴について理解する。
3	歯と口腔の発生と成長・発育	講義	歯・口腔の発生、歯の形成時期、萌出時期について理解する。 歯・口腔の形成と栄養、ホルモンについて理解する。 歯・口腔の形成異常について理解する。
4	口腔の機能	講義	歯・口腔の機能（咀嚼・嚥下・味覚・発音・発声・表情・審美性）について理解する。 歯科疾患と全身の健康について理解する。 全身疾患と口腔の健康について理解する。
5	歯・口の付着物（ペリクル・プラーク）	講義	ペリクルの形成、性状について理解する。 プラークの構成要素、細菌叢について理解する。 プラークの形成について自ら説明できるようにする。
6	歯・口の付着物（歯石・ステイン・その他）	講義	縁上、縁下のプラークの違いを理解する。 歯石の特徴について理解する。 ステイン、舌苔、マテリアアルバについて理解する。
7	口腔清掃	講義	自浄部位、可浄部位、清掃不可能部位について理解する。 口腔清掃法の種類について理解する。 歯磨剤の特性、種類について理解する。
8	う蝕の疫学的特性と発生要因	講義	う蝕の疫学的特性について理解する。 う蝕発生にかかわる要因について理解する。 ステファンのカーブについて理解する。
9	う蝕活動性	講義	う蝕活動性試験の目的、所要条件について理解する。う蝕活動試験の種類について類別できるようにする。（要因別、検体別、特徴別） リスクに応じたう蝕予防法について概説できるようにする。
10	う蝕予防法	講義	う蝕発病の第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する。小窩裂溝填塞法の目的、術式を理解する。代用甘味料（糖アルコール・オリゴ糖等）について理解する。
11	フッ化物のの性状・代謝 フッ化物のう蝕予防機序	講義	人間生態系におけるフッ化物の意義について理解する。生体におけるフッ化物の代謝を理解する。フッ化物のう蝕予防メカニズムを理解する。
12	フッ化物の毒性（急性・慢性）	講義	フッ化物の急性毒性と慢性毒性の違いを理解する。 フッ化物の中毒に対する正しい対処法を理解する。 歯のフッ素症と骨フッ素症の特徴を理解する。
13	フッ化物によるう蝕予防法（全身的・局所的 フッ化物応用の現状	講義	フッ化物の全身応用法と局所応用法を類別できるようにする。 フッ化物局所応用法の目的、薬剤、術式を理解する。 ライフステージに応じたフッ化物の応用法を説明できるようにする。
14	歯周疾患の疫学	講義	歯周疾患の疫学的特性を理解する。 歯周疾患の種類と原因を理解する。 歯周疾患の全身への影響を理解する。
15	定期試験		筆記試験

科目名	口腔衛生学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	福田　雅臣
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Hygiene Study	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	火/5.6限

講師紹介	歯科医師であり、重度心身障害児施設での臨床経験を有し、大学の教員として経験豊富な講師が、口腔衛生学について講義する。 福田　雅臣:日本歯科大学生命歯学部衛生学講座教授　専門分野：口腔衛生学　日本口腔衛生学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会 社会歯科学学会所属
目的	歯科衛生士として、生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学ぶ。さらに、必要な地域歯科保健活動の手法や実際を学び、知識を身につける。
科目概要	口腔の疾患の予防や、健康増進のための知識を習得し、歯科臨床に応用できるよう理解を深める。
到達目標	う蝕、歯周疾患以外の歯科疾患の疫学的特徴を説明できる。 地域歯科保健活動の仕組み（行政機構）と進め方を説明できる。 各歯科保健活動の実態を説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	保健生態学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	保健情報統計学（医歯薬出版）		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	その他の疾患の疫学	講義	不正咬合の現状、口臭を起こす要因を理解する。
2	地域歯科保健活動	講義	地域歯科保健活動の意義と特性を理解する。 ヘルスプロモーションなど地域保健の新たな概念について理解する。 地域保健活動の進め方を理解する。
3	歯科保健における行政の役割	講義	地域保健法について理解する。 都道府県、保健所・市町村保健センターの歯科保健業務を理解する。 歯科口腔保健法と口腔保健支援センターについて理解する。
4	日本の健康増進対策の歴史と健康日本21	講義	地域歯科保健に関係する保健福祉関係施策の変革を理解する。 「健康日本21（第二次）」の歯・口腔の健康目標を列挙できるようにする。 増進法の目的、施策を理解する。
5	集団検診と事後措置、調査票の作成方法	講義	スクリーニングの評価について理解する。
6	災害時の歯科保健活動	講義	大規模災害時の保健医療対策を理解する。 被災地での歯科保健活動について理解する。 災害時の個人識別における歯科衛生士の役割を理解する。
7	国際歯科保健、開発途上国への歯科保援助	講義	国や地域により健康水準や保健医療の発達程度が異なっていることを理解する。 国際協力の関わる仕組み、機関を列挙できるようにする。 WHO,JICAの活動の現状を理解する。
8	母子歯科保健	講義	妊産婦、乳幼児の口腔保健管理について理解する。 1歳6ケ月児、3歳児歯科健康診査の目的、う蝕罹患型を理解する。 う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を理解する。
9	学校歯科保健	講義	学校歯科保健の意義や領域を理解する。 学校健康診断と事後措置について理解する 学校歯科医の職務について理解する
10	産業歯科保健	講義	産業保健の目的を理解する。
11	成人歯科保健	講義	フレイル、オーラルフレイルについて理解する。 高齢者の医療の確保に関する法律で実施される成人保健対策を理解する。 高齢者医療制度を理解する。、健康増進法による成人歯科保健対策を理解する。
12	高齢者歯科保健	講義	高齢期の歯科的特徴を理解する。 地域包括ケアシステムについて理解する。 介護保険
13	障害者歯科保健	講義	障害者（児）の定義、現況について理解する。 障害者総合支援法による福祉制度を理解する。 障害者歯科保健での歯科衛生士の役割を理解する。
14	歯科疾患の疫学	講義	国家統計の種類を理解する。歯科疾患実態調査の結果の概要を理解する。 国民健康・栄養調査の結果の概要を理解する。
15	定期試験		筆記試験

科目名	衛生学・公衆衛生学 基礎	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	今井　敏夫
		授業形態	講義		有		
（英）	Basic Hygienics・Public Health	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	火/5,6限

講師紹介	歯科大学の衛生学講座ならびに生理学講座で長年にわたり研究、講義に携わってきた経験豊富な講師が臨床経験を活かし歯科衛生士として必要な衛生学・公衆衛生学の講義を行う。 【所属：日本歯科大学名誉教授】【専門分野：衛生学、生理学、薬理学】【所属学会：日本口腔衛生学会】【研究：診療室での環境管理、骨芽細胞に関する研究、児童の味覚に関する調査研究】
目的	公衆衛生学は人間の疾病や健康の事象と環境要因との関わり合いを考究する科学であり術である。ここでは家族、地域社会の背景をみきわめることによって予防医学的、社会医学的視野を広げ実践活動に役立つ知識を習得し将来の保健・医療チームの一員となることを理解できるようにする。
科目概要	人間の生活環境を取り巻く様々な諸因子と健康障害との相互関係を理解し、歯科臨床に応用できるようになる。
到達目標	わが国の地域保健の現状および保健所の役割を述べる事ができる。 ヒトのライフサイクルにおける健康問題とその予防について説明する事ができる。 地域包括ケアと歯科衛生士の役割を理解する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）89点～80点B（3.0）79点～70点C（2.0）69点～60点D（1.0）59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超えるものは試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	保健生態学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業終わりに小テストを実施し理解度を評価する。
参考図書	口腔衛生学2022、一世印刷		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論	講義	衛生学・公衆衛生学の定義と健康の定義について。 予防医学の概要について。
2	地域保健	講義	地域保健の概念、特性について。 わが国の地域保健の組織について。保健所の役割と業務について。 地域保健活動の基本的な進め方について。
3	母子保健	講義	母子保健の目的、概要について。 わが国の母子保健の現状と行政の役割について。 乳幼児保健特に、乳児健康診査、幼児健康診査について。 健やか親子21について。
4	学校保健	講義	学校保健の意義と概要について。 学校保健の領域について。 学校保健の活動と組織について。学校における感染症対策について。
5	成人保健：	講義	生活習慣病の現状と対策をについて。特定健康診査、特定保健指導について。高齢者の保健対策と福祉対策及び公的医療対策について。 地域包括ケアと歯科衛生士の役割について。
6	産業保健	講義	わが国の労働者の健康状況の現状について。 わが国の産業保健対策（3管理、5本の柱）と健康診断について。 職業性疾患を起こす要因について。 トータルヘルスプロモーションプランとコラボヘルスについて。
7	精神保健	講義	わが国の精神保健の現状について。 精神保健にかかわる法律について。 わが国の精神保健の問題点と支援対策について。
8	定期試験		

科目名	衛生学・公衆衛生学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	今井　敏夫
		授業形態	講義		有		
（英）	Hygienics・Public Health	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	火/5,6限

講師紹介	歯科大学の衛生学講座ならびに生理学講座で長年にわたり研究、講義に携わってきた経験豊富な講師が臨床経験を活かし歯科衛生士として必要な衛生学・公衆衛生学の講義を行う。 【所属：日本歯科大学生命歯学部名誉教授】【専門分野：衛生学、生理学、薬理学】【所属学会：日本口腔衛生学会、歯科基礎医学会、日本生理学会】【研究：診療室での環境管理、骨芽細胞に関する研究、児童の味覚に関する調査研究】
目的	公衆衛生学は人間の疾病や健康の事象と環境要因との関わり合いを考究する科学であり術である。ここでは家族、地域社会の背景をみきわめることによって予防医学的、社会医学的視野を広げ実践活動に役立つ知識を習得し将来の保健・医療チームの一員となることを理解できるようにする。
科目概要	人間の生活環境を取り巻く諸因子と健康障害との相互関係を理解し、歯科臨床に応用できるようにする。
到達目標	疫学の意義と方法論について説明できる。わが国の人口の現状と諸問題を理解する。 人間の生活問題を取り巻く環境諸要因子と健康障害との相互関係を理解する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）89点～80点B（3.0）79点～70点C（2.0）69点～60点D（1.0）59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超えるものは試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	保健生態学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業終わりに小テストを実施し、理解度を評価する。
参考図書	口腔保健学2022、一世印刷		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	疫学	講義	疫学の定義について。 疾病の発生や流行状態を表す指標について。 記述疫学、分析疫学、実験疫学について。 スクリーニング検査の意義・目的及び有効性の指標。
2	人口統計-1	講義	人口に関する指標について。 人口動態統計と人口静態統計の違いについて。 国勢調査とわが国の現状と将来推計について。
3	人口統計-2	講義	人口動態統計調査結果の概要について。　生命表と 将来推計について。
4	健康と環境―1	講義	人間と環境諸要因の関係をについて。 地球規模で発生する環境破壊応について。
5	健康と環境-2	講義	公害問題とその原因物質について。 水、空気、温度と健康障害との関連性について。 感染性廃棄物の処理について。
6	感染症	講義	感染症の概念と感染症の発生要因について。 感染予防・流行防止の基本的対策について。 主な感染症の動向について。
7	食品保健	講義	食と健康障害について。わが国の食中毒の発生状況について。 食中毒の分類特徴と予防対策について。 食品の安全性確保のための方策について。
8	定期試験		講義内容全範囲から出題する。

科目名	歯科衛生学総論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	青木　薫
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Hygienist Outline	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	歯科衛生士として、臨床実務経験30年以上の経験豊富な講師が、臨床実務経験を踏まえ、歯科衛生士として必要な歯科衛生学総論を講義する。 経歴：日本歯周病学会認定歯科衛生士　日本医療機器学会第2種滅菌技士 学会発表：日本歯周病学会、日本老年歯科学会、日本歯科衛生士会　著書：「お悩み相談室へようこそ」「歯科衛生士臨床のBASICofBASIC」他
目的	歯科衛生士像を構築することで、歯科医療の基礎となる知識を総合的に習得する。
科目概要	歯科衛生士の役割や使命を明確にするため、歯科臨床で担当する法的に定められた業務について学習資料を通した講義や演習で総合的に理解する。
到達目標	歯科衛生士としての職業を理解し業務の責務を説明できる。口腔をとおして全身の健康について理解し説明できる。 歯科医療倫理の概要について理解し説明できる。歯科医療安全・医療管理を理解し説明できる。 歯科衛生過程を学び歯科衛生士の業務の基本を理解し説明と実践ができる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科衛生学総論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	予習として事前に配布資料の対応項目に目を通すことが望ましい。 さらに復習としてその日に講義した資料を読むことが望ましい。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】講義ごとにプリントを配布する		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生学について理解する 歯科衛生士の歴史と背景およびその役割について理解する	講義	歯科衛生学とは 歯科衛生活動について 歯科衛生の歴史とその背景 歯科衛生業務と歯科衛生士の役割
2	予防の概念と歯科衛生の考え方 歯科衛生過程	講義	予防の概念 歯科衛生の考え方 歯科衛生過程の活用とその利点
3	歯科衛生士と歯科衛生士法	講義	歯科衛生士法と歯科衛生業務（業務独占・名称独占）について 歯科衛生士に求められる技能
4	安全管理	講義	安全管理 歯科衛生士が行うリスクマネジメントについて 感染予防対策について
5	歯科衛生士と医療倫理	講義	歯科衛生活動のための理論について （ヒューマンニーズ理論・EBM・クリティカルシンキングなど）
6	歯科衛生士の活動と組織	講義	歯科衛生活動の現状と活動の場 歯科衛生士と組織 海外における歯科衛生士.
7	1～6までのまとめ授業 定期試験に向けて	講義	歯科衛生学総論まとめ
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科臨床概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	古平　衣美
		授業形態	講義		有		
（英）	Dentistry Clinical Pathology Outline	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が、大学教員の教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 昭和大学歯学部卒業　歯学博士　昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会　MFT学会　臨床心理カウンセラー
目的	2年生で行われる歯科臨床各論の授業開始前に口腔領域に発生する疾患の本態を理解する。
科目概要	歯科診療、歯科疾患の概略と体系を理解し、患者の疾病予防、および疾患からの回復を目指した行動について理解を深める。
到達目標	・2年生における臨床各論の授業を抵抗なく受講できること。 ・各専門別に行われる各論の授業を有機的に総合して理解できること。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前に口腔解剖学、特に歯と歯周組織の組織学、発生学を理解しておくこと。 事後は臨床各論を総合的に理解できる基礎を作ること。
参考図書	なし		
特記事項	【プリント（補助教材）】 プリントを配布する		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第1部　医療および歯科医療 付)歯の組織学、歯の発生学	講義	第1部　医療及び歯科医療：医療全体に中での歯科医療の位置と特徴を理解する。 口腔疾患を理解するために　正常な歯の組織学、歯の発生学を復習する。
2	第2部　歯科疾患の概要 1）う蝕の病因論 2）う蝕の進行と症状の変化	講義	第2部　歯科疾患の概要：歯および口腔領域に発生する疾患について、その本態を理解する。 う蝕の病因論：う蝕の発生機序について理解する。 う蝕の進行と症状の変化：病態の進行に伴う症状の変化を理解する。
3	3）う蝕の治療 4）う蝕の予防	講義	う蝕の各進行段階における治療法と、その際の歯科衛生士の介助法について理解する。 う蝕の予防法と実際の効果及びその限界について理解する。特に予防は歯科衛生士が主体的に取り組む課題であるため、深く理解する必要が有る。
4	2. 歯周疾患	講義	歯周疾患について1）病因論　2）症状　3）診査・診断　4）治療　5）メインテナンス　6）予防法などを理解する。 歯周疾患については診査から治療の一部、メインテナンス、予防に至るまで、歯科衛生士が主体的に関わることが多いので、詳しく学習する。
5	3. 歯の欠損 4. 不正咬合 5. その他の疾患 1）先天異常	講義	歯の欠損に対する補綴治療の方法を理解する. 不正咬合の種類と矯正治療法を理解する。 その他の疾患　1）先天異常として、歯の異常と口唇裂・口蓋裂について理解する。
6	2）外傷 3）炎症性疾患 4）嚢胞	講義	外傷の原因、症状、治療法について理解する。 急性化膿性上・下顎骨炎の原因菌、感染経路、症状、治療法などを理解する。 嚢胞が口腔領域に多い理由、それらの上皮由来、構造、治療方法などを理解する。
7	5）腫瘍　6）口腔粘膜疾患 7）唾液腺疾患　8）顎関節疾患 9）神経疾患	講義	腫瘍の定義。口腔に特有な腫瘍。比較的多発する腫瘍について病態、治療法を理解する。 口腔に多発する粘膜疾患の種類と病態について理解する。 唾液腺疾患の好発部位とその症状について。 顎関節疾患　神経疾患はその概要を理解する。
8	定期試験		筆記試験 多岐選択式（国家試験方式に準じて）で行う

科目名	歯科予防処置論 基礎	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	青木　薫
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Basic Dentistry Prevention Measures Theory	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木または金/5.6限

講師紹介	歯科衛生士として、臨床実務経験30年以上の経験豊富な講師が、臨床実務経験を踏まえ、歯科衛生士として必要な歯科衛生学総論を講義する。 経歴：日本歯周病学会認定歯科衛生士　日本医療機器学会第2種滅菌技士 学会発表：日本歯周病学会、日本老年歯科学会、日本歯科衛生士会　著書：「お悩み相談室へようこそ」「歯科衛生士臨床のBASICofBASIC」他
目的	歯科予防処置（歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置）に必要な知識および技術を習得する。
科目概要	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する。
到達目標	歯科予防処置論の定義を説明し、それに必要な基礎知識を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論	講義	定義・法的位置付け・予防の概念・歯科予防処置の内容
2	口腔の基礎知識	講義	口腔の構成・歯周組織の構成・歯冠・歯根の形態
3	う蝕と歯周病の基礎知識①	講義	口腔内の付着物・沈着物 う蝕の分類と原因
4	う蝕と歯周病の基礎知識②	講義	歯周病の分類と特徴・歯周病の進行と原因
5	歯科衛生介入としての歯科予防処置①	演習	スケーリング・ルートプレーニング
6	歯科衛生介入としての歯科予防処置②	演習	歯面研磨・歯面清掃
7	まとめ授業	講義	これまでのまとめ
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科予防処置論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	青木　薫
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures Theory Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	歯科衛生士として、臨床実務経験30年以上の経験豊富な講師が、臨床実務経験を踏まえ、歯科衛生士として必要な歯科予防処置論を講義する。 経歴：日本歯周病学会認定歯科衛生士　日本医療機器学会第2種滅菌技士 学会発表：日本歯周病学会、日本老年歯科学会、日本歯科衛生士会　著書：「お悩み相談室へようこそ」「歯科衛生士臨床のBASICofBASIC」他
目的	歯科予防処置（歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置）に必要な知識および技術を習得する。
科目概要	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する科目であり、同時に歯科衛生士にとって必要不可欠な集中力や持続力も身につけられるよう、自主的に講義や実習に取り組むことが望まれる。
到達目標	口腔内診査、縁上の歯石除去に必要な知識と技術を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	インスツルメントの取り扱い	講義 演習	ミラーテクニック
2	エキスプローリング・プロービング実習	講義 演習	ミラー操作
3	エキスプローリング・プロービング実習	講義 演習	ミラー操作
4	シックルスケーラー	講義 演習	シックルスケーラー卓上練習と模型実習
5	シックルスケーラー　下顎前歯部	講義 演習	下顎前歯部縁上スケーリング模型実習
6	シックルスケーラー　上顎前歯部	講義 演習	上顎前歯部縁上スケーリング模型実習
7	シックルスケーラー　左下臼歯部	講義 演習	左下臼歯部縁上スケーリング模型実習
8	シックルスケーラー　右下臼歯部	講義 演習	右下臼歯部縁上スケーリング模型実習
9	シックルスケーラー　左上臼歯部	講義 演習	左上臼歯部縁上スケーリング模型実習
10	シックルスケーラー　右上臼歯部	講義 演習	右上臼歯部縁上スケーリング模型実習
11	相互実習	講義 演習	エキスプローリング・プロービング相互実習
12	相互実習	講義 演習	エキスプローリング・プロービング相互実習
13	相互実習	講義 演習	縁上スケーリング相互実習
14	相互実習	講義 演習	縁上スケーリング相互実習
15	定期試験		筆記試験 エキスプローリング、プロービング、シックルスケーラー基礎知識についての設問

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	青木　薫
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures TheoryⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	歯科衛生士として、臨床実務経験30年以上の経験豊富な講師が、臨床実務経験を踏まえ、歯科衛生士として必要な歯科予防処置論を講義する。 経歴：日本歯周病学会認定歯科衛生士　日本医療機器学会第2種滅菌技士 学会発表：日本歯周病学会、日本老年歯科学会、日本歯科衛生士会　著書：「お悩み相談室へようこそ」「歯科衛生士臨床のBASICofBASIC」他
目的	歯科予防処置に必要な知識および技術を習得する。.
科目概要	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する科目であり、同時に歯科衛生士にとって必要不可欠な集中力や持続力も身につけられるよう、自主的に講義や実習に取り組むことが望まれる。
到達目標	口腔内診査、縁上の歯石除去に必要な知識と技術を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	別途、授業内で紹介		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	キュレットスケーラーの基礎知識	講義 演習	キュレットスケーラーの基礎知識 キュレットスケーラーの把持方法、動かし方など
2	キュレットスケーラー　下顎前歯部	演習	下顎前歯部縁下スケーリング模型実習
3	キュレットスケーラー　上顎前歯部	演習	上顎前歯部縁下スケーリング模型実習
4	キュレットスケーラー　左下臼歯部	演習	左下臼歯部縁下スケーリング模型実習
5	キュレットスケーラー　右下臼歯部	演習	右下臼歯部縁下スケーリング模型実習
6	キュレットスケーラー　左上臼歯部	演習	左上臼歯部縁下スケーリング模型実習
7	キュレットスケーラー　右上臼歯部	演習	右上臼歯部縁下スケーリング模型実習
8	シャープニング	講義 演習	シャープニングの基礎知識　シャープニング実習
9	超音波スケーラー	講義 演習	超音波スケーラーの取り扱いと基礎知識 超音波スケーラーの基本操作模型実習
10	歯面研磨（ポリッシング）	講義 演習	歯面研磨の目的、使用機材　歯面研磨模型実習
11	超音波スケーラー・歯面研磨	講義 演習	超音波スケーラー・歯面研磨　模型実習
12	相互実習	演習	超音波スケーラー・歯面研磨　相互実習
13	相互実習	演習	超音波スケーラー・歯面研磨　相互実習
14	相互実習	演習	超音波スケーラー・歯面研磨　相互実習
15	定期試験		筆記試験 キュレットスケーラー、シャープニング、超音波スケーラー、歯面清掃についての設問

科目名	歯科保健指導論 基礎	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	ディーン宮仁子
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Basic Dentistry Health Guidance Theory	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	火/1,2限

講師紹介	歯科医院での臨床経験を有した講師が、歯科衛生士として必要な歯科保健指導論を講義・演習する。 現在、フリーランスの歯科衛生士として、小児から高齢者までの口腔ケアに携わっている。
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得
到達目標	歯科保健指導（口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術）を理解する
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 （医歯薬出版株式会社）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科保健指導論の概要　健康の概念	講義	歯科保健指導の意義と特性　歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ 健康の定義　ヘルスプロモーション　口腔健康管理
2	食生活指導のための基礎知識①	講義	国民の健康と栄養の現状
3	食生活指導のための基礎知識②	講義	食品とう蝕の関連性
4	食生活指導のための基礎知識③	講義	食品と歯科疾患の関連性
5	保健行動支援のための基礎知識	講義	歯科保健指導に関わる理論と行動変容
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理①	講義	情報収集　医療面接
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理②	講義	全身の健康状態の把握　認知機能の把握　生活環境の把握　生活習慣の把握
8	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理③	講義	分析のためのデータ（口腔衛生状態の指数）
9	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理④	講義	分析のためのデータ（歯周疾患の指数）
10	口腔衛生管理①	講義	ブラッシング（歯ブラシ・ブラッシングの方法）
11	口腔衛生管理②	講義	その他の清掃法（フロッシング・歯間ブラシ・タフトブラシ）
12	口腔衛生管理③	講義	歯磨剤・洗口剤
13	口腔衛生管理④	演習	ブラッシング実習
14	口腔の基礎知識	講義	口腔機能　摂食嚥下のしくみ
15	定期試験		定期試験

科目名	歯科保健指導論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	ディーン宮仁子
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Theory Ⅰ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水・金/5,6限

講師紹介	歯科医院での臨床経験を有した講師が、歯科衛生士として必要な歯科保健指導論を講義・演習する。 現在、フリーランスの歯科衛生士として、小児から高齢者までの口腔ケアに携わっている。
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得
到達目標	歯科保健指導（口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術）を理解する
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 （医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。
参考図書	なし		
特記事項	なし		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理⑤	講義	口腔の機能的問題の把握
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入	講義	妊産婦期の口腔健康管理
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入	講義	乳児期～幼児期の口腔の特徴と口腔衛生管理
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入	講義	乳児期の口腔機能と食生活指導
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入	講義	幼児期の口腔機能と食生活指導
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入	講義	学齢期の口腔健康管理
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	乳児期～学齢期　口腔機能発達不全に関わる指導
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	澤田　明子
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Dental Examination Assistance Theory Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	水・金/5.6限

講師紹介	歯科医院にて臨床経験を有した教員が、歯科衛生士として必要な歯科診療補助論の講義・実習を行う。
目的	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。
科目概要	診療環境のマネジメントや歯科診療の流れを理解した上でのアシスタントワークに必要な知識の修得を行う。
到達目標	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し、技術を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科診療補助論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。 毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。 加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。
参考図書	第4版イラストと写真でわかる歯科材料の基礎		
特記事項	持参物：教科書、白衣の身だしなみ、実習セット、顎模型、形成歯牙セット、顎模型用ドライバー		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療の概念 1.診療の補助とは 2.診療の補助の範囲の法的な変化	講義	歯科診療補助の業務内容と法的解釈 診療の補助を行う医療職種とその業務 保険医療制度での補助行為に関する業務概要
2	医療安全と感染予防 滅菌と消毒①	講義	医療安全の概念とその対策 歯科医療における感染症の概念と対策 滅菌と消毒の定義
3	滅菌と消毒② 歯科診療における身だしなみ	講義	滅菌と消毒の方法・滅菌物の取り扱い・ハイリスク患者の器材の取り扱い 実習室での身だしなみ
4	実習室の使用方法 .顎模型の取り扱い	講義	顎模型の適切な取り扱いについて (株)ニッシン様　講演
5	医療廃棄物の取り扱い 歯科ユニットの使用方法	講義	診療室の廃棄物とその分類について ユニットの各部名称と使用時の注意点 操作方法、メンテナンス方法について（株)モリタ様　講演
6	手指衛生（手指消毒） 個人防護具の種類と取り扱い 歯科診療室の基礎知識	講義	手指衛生の分類と基本的手法 個人防護具の装着・脱着の手順
7	歯科診療所における受診の流れ 患者対応の基本	講義	歯科診療室の環境、構造と設備 歯科診療所における受診の流れ
8	.歯科用チェアユニットの片付け・清拭方法 歯科診療における共同動作と基本的な歯科診療の補助について	講義	共同動作の概念とは 術者、補助者、患者の適切なポジションについて 歯科診療時の適切なライティングテクニックについて
9	共同動作	演習	フォーハンデッドデンティストリーとは 適切な器具の受け渡し、共同動作が理解できる バキュームテクニックを理解できる
10	共同動作 フォーハンドデンティストリー	演習	一連の共同動作を理解し、ライティング・フォーハンデットデンティストリー・バキュームテクニック・スリーウェイシリンジテクニックが適切に実践できる
11	共同動作　フォーハンドデンティストリー	演習	一連の共同動作を理解し、ライティング・フォーハンデットデンティストリー・バキュームテクニック・スリーウェイシリンジテクニックが適切に実践できる
12	ラバーダム防湿概要	講義	ラバーダム防湿とは ラバーダム防湿に使用する器具について
13	ラバーダム防湿実習	演習	学模型を用いたラバーダム実習
14	歯科領域に必要な臨床検査 歯肉圧排	演習	臨床検査の目的、役割、種類について 歯肉圧排とは 歯肉圧排に使用する器具について
15	定期試験		定期試験

科目名	歯科診療補助論Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	澤田　明子
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Dental Examination Assistance TheoryⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	2			曜日/時間	火・水・木・金/5.6限

講師紹介	歯科医院にて臨床経験を有した教員が、歯科衛生士として必要な歯科診療補助論の講義・実習を行う。
目的	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し、技術を習得する。
科目概要	診療環境のマネジメントや歯科診療の流れを理解した上でのアシスタントワークに必要な知識の修得を行う。
到達目標	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し、技術を習得する。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	歯科診療補助論（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。 毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。 加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。
参考図書	第4版イラストと写真でわかる歯科材料の基礎		
特記事項	持参物：白衣の身だしなみ、実習セット、顎模型、形成歯牙セット、顎模型用ドライバー		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	印象採得について	講義	印象採得の基礎知識 アルジネート印象材の適切な取り扱いについて 嘔吐反射地の対応
2	アルジネート印象材を用いた印象採得	演習	アルジネート印象材と顎模型を用いた片顎・全顎印象採得実習
3	寒天印象材を用いた連合印象採得	演習	寒天印象材とアルジネート印象材を用いた印象採得、顎模型上相互実習
4	アルジネート印象材を用いた印象採得	演習	アルジネート印象材を用いた印象採得相互実習
5	歯科用石膏を用いた研究用模型の作成	講義	アルジネート印象材を用いた相互印象採得と研究用模型の作成実習
6	歯科用石膏を用いた研究用模型の作成	演習	アルジネート印象材を用いた相互印象採得と研究用模型の作成実習
7	その他の概形印象材・精密印象材について	講義	顎模型を用いた合成ゴム質印象材取り扱い実習
8	その他の概形印象材・精密印象材について	演習	顎模型を用いたモデリングコンパウンド印象材、酸化亜鉛ユージノール印象材取り扱い実習
9	合着材・接着剤の基礎知識	講義	合着材としてのグラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント、接着性レジンセメントについて
10	合着材・接着剤の取り扱い	演習	合着材としてのグラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント、接着性レジンセメント取り扱い実習
11	仮封材・仮着材の基礎知識	演習	仮封材としての水硬性仮封材・仮封用軟質レジン・テンポラリーストッピングについて 仮封材としての水硬性仮封材・仮封用軟質レジン・テンポラリーストッピング取り扱い実習 仮着材としての歯科用セメント取り扱い実習
12	隔壁・成形歯冠修復について	演習	隔壁・成形歯冠修復とは 顎模型を用いた隔壁・成形歯冠修復実習
13	成形歯冠修復について 光重合型コンポジットレジンについて	講義	成形歯冠修復について 光重合コンポジットレジンについて
14	光重合型コンポジットレジンについて	演習	光重合型コンポジットレジン修復の手順について実習
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科材料学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	片岡　有
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Material Science	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	金/5.6限

講師紹介	歯科医師として大学附属病院にて臨床経験を有し、大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科材料学を講義する。 【所属】昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門・講師【専門分野】歯科保存学・歯科理工学・生体材料学 【所属学会】日本歯科理工学会・日本口腔インプラント学会・日本デジタル歯科学会・他【研究】チタン・口腔インプラント・骨移植材・CAD/CAM 【執筆】スタンダード歯科理工学第6版（分担執筆）・歯科医療の質を支えるマテリアルのOSARAI&UPDATE（分担執筆）
目的	歯科衛生士として必要な歯科材料に関する専門的知識を習得する。
科目概要	歯科衛生士業務に欠かせない歯科材料の基礎を学ぶことで、材料の特徴と使用法を理解し、材料の取り扱いおよび臨床科目である歯科保存学や歯科補綴学につながる知識を理解する。
到達目標	①歯科材料②歯科材料の規格③金属系材料、セラミックス系材料、レジン系材料の特徴④歯科材料の評価法⑤印象採得から模型製作までの過程⑥印象材の分類と⑦模型材の分類と特徴⑧石膏の種類・硬化機構と硬化促進・硬化遅延⑨合着と接着の意義⑩合着・接着材の特徴と取り扱いを説明できる。⑪成形修復材料⑫歯科用レジン（義歯床用レジン・コンポジットレジン）⑬一般的な歯科臨床の流れ⑭仮封材の分類⑮デジタルデンティストリーの流れ（CAD/CAM、口腔内スキャナー）⑯口腔インプラントの構造⑰歯科医療で利用される新材料（チタン・ジルコニア）を理解し説明できる。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	イラストと写真で分かる歯科材料の基礎・第4版（永末書店）	事前事後学習とその内容	【事前学習】講義内容を確認し、該当分野の教科書を一読しておくこと。その際に知らない用語および興味のある用語をチェックしておくと講義を理解しやすい。（特に歯科臨床経験のない学生は必須。） 【事後学習】講義終了時に10分程度の小テストを行う。その際の小テストと配布資料を参考に事後学習とすること。
参考図書	歯科医療の質を支えるマテリアルのOSARAI&UPDATE		
特記事項	小テストの際にネットワーク（WiFi）を活用するのでスマホ等持参すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科材料の基礎知識 【教科書】p.6～p.23 【該当する到達目標】①、②、③、④	講義	歯科材料を生活に密着した材料と比較しながら説明する。 材料を金属系材料、セラミック系材料、レジン系材料の3つに分類し、それぞれの物性や評価法を示しながら解説する。医療で用いる材料の規格（薬機法、ISO、JIS）についてそれぞれの関係を説明する。
2	仮封材 【教科書】p.77～p.84 【該当する到達目標】⑬、⑭	講義	う蝕の分類（CO～C4）を基本に一般的な歯科診療の流れを説明する。 その中で利用される仮封材の特徴と目的について解説する。 教科書p.77図1、p.78表1を理解できるように説明する。
3	印象材 【教科書】p.26～p.43 【該当する到達目標】⑤、⑥	講義	歯科臨床で印象採得から模型製作までの流れと模型に意義について考える。 印象材の分類と特徴を説明する。 アルジネート印象材、寒天印象材およびシリコーン印象材については詳細に解説を行う。
4	模型用材料 【教科書】p.44～p.50 【該当する到達目標】⑦、⑧	講義	前回の講義で扱った印象材に続く内容である。模型製作に関わる材料として石膏とレジンがあることを説明する。 石膏は模型材としてもっとも扱われている材料であり、硬化機構、種類、特徴について解説する。さらに歯科衛生士として石膏粉末の保管法も説明する。
5	合着・接着材 【教科書】p.51～p.62 【該当する到達目標】⑨、⑩	講義	合着および接着の意味を説明する。それを踏まえて合着・接着材の分類と特徴を材料学的に解説する。近年ではレジンセメントが使用されることを説明し、今まで使用されていた合着・接着材との差を明確にする。取り扱いについても基礎的な内容に触れる。
6	歯冠修復材 【教科書】p.63～p.76 【該当する到達目標】⑪、⑫	講義	チェアサイドで行われる成形修復について説明する。 成型修復材料の種類にグラスアイオノマーセメント、コンポジットレジン、アマルガムがあり、それぞれの特徴と適応症について解説する。 また、義歯床用レジンとコンポジットレジンの材料学的特性について解説する。
7	新しい歯科材料・他の歯科治療用材料 【教科書】p.85～p.87、p.96～p.102 【該当する到達目標】⑮、⑯、⑰	講義	新しい材料であるチタンとジルコニアについて解説を行う。続いて、口腔インプラントの構造およびオッセオインテグレーションの概念を説明する。後半でデジタルデンティストリーの流れについてCAD/CAMおよび口腔内スキャナーを中心に説明する。
8	定期試験		【試験範囲】筆記試験 ①配布プリント、②小テスト ③教科書p.6～p.104（p.24とp.104の確認問題は含む）（p.88～p.95は除く）

科目名	手話	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	高須　一美
		授業形態	講義		有		
（英）	Sign Language	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	水/5.6限

講師紹介	手話通訳士として講演会通訳・政見放送通訳等現場通訳の実務経験を有し、専門学校・カルチャーセンター等に於ける手話指導を行っている講師が演習を交えて講義を行う。
目的	聴覚障がい者のコニュニケーション方法の一つである手話の基礎を身に付ける。
科目概要	コミュニケーション方法の一つとして手話の基本技術を習得する。
到達目標	コミュニケーション方法としての手話を身に付ける。 聴覚障がいの患者様が治療の場でリラックスできる様、聴覚障がいについての理解を深める。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験　□ 口頭試験　□ 実技試験　□ 論文　□ レポート

教科書	手話テキストⅠ（みつわ印刷）	事前事後学習とその内容	毎回、授業のはじめに前回の復習を行う。授業の終わりには、まとめとして小テストを行い理解の確認をする。
参考図書	なし		
特記事項	写真撮影、スマートフォンの録画は許可しない。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	手話とはどの様な言語であるのか、聴覚障がいとはどの様な障がいかを理解する。 挨拶の表現を覚える。	講義	コミュニケーション方法の手話について理解し、聴覚障がいについて正しく理解をする。 治療の現場で挨拶の手話が自然に表現出来る様に、安心して治療を受けられる様援助する技術を学ぶ。
2	自分の名字が表現できる。 相手に名前を尋ねられる様になる。	講義	自分の名字・歯科衛生士である事を表現できるようになる。 緊張している相手に対して自らの母語である手話で声掛けができる様になる。
3	指文字（50音）の表現方法を学ぶ。 現場で使える単語を覚える。	講義	指文字を表現する。 カタカナ表示の物の名前を表現してみる。 痛み、薬 etc‥　現場で使える単語を覚える。
4	数字の表現を覚える。 DVDを見て聴覚障がい者と聴者の世界を考える。	講義	日・付の表現・時間・金額等数字に関わる表現がスムーズに表現できる様になる。
5	時制（過去・現在・未来）の表現を覚える。 曜日の表現を覚える。	講義	今日・明日・昨日・先週・来週等、曜日の表現を覚え会話の中で使える様になる。
6	疑問詞を学ぶ。 コミュニケーションが取れることを目指す。	講義	会話ができるように、2人で質問と応答ができる様になる。
7	1～6回までのまとめ	講義	現場でのやり取りを想定して、実践に生かせる様に身に付ける。
8	定期試験		筆記試験 手話で表現された内容を読み取り、文章で解答する。

科目名	審美美容ゼミ	年次	1	選択科目	実務経験	科目責任者	近松　史子/相川　奈美
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Advanced dental practice	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	月/3.4限

講師紹介	近松　史子/相川　奈美：歯科衛生士としての豊富な臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な専門知識技術習得のための授業を行う。 ミュゼホワイトニング：歯科医師　末光　妙子先生　歯科医師としての臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な審美・美容について講義する。 ヘアメイク講座：ヘアメイクアーティスト　Izumi先生
目的	提携企業による審美歯科・美容分野のゼミ講座を通じて、同分野で活躍する歯科衛生士を育成する。
科目概要	各専門分野で活躍されている業界の方から、演習を通して実践的な知識・技術を習得することができる。
到達目標	審美歯科で働く歯科衛生士の業務内容を知り、将来像を明確にする。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験　☐ 口頭試験　☐ 実技試験　☐ 論文　■ レポート

教科書	なし	事前事後学習とその内容	各歯科分野に興味を持つ。 日頃の通常授業においても積極的に学び知識を深めること。
参考図書	なし		
特記事項	演習授業実施時には講師から指示のあった準備物を持参する		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	接遇、医院動画ツアー、デンタルエステ 末光　妙子　先生	演習	審美歯科における歯科衛生士の役割、患者接遇について ミュゼホワイトニング　医院動画ツアー デンタルエステ（リップ、歯肉、表情筋マッサージ）について学ぶ
2	ホワイトニング基礎知識 末光　妙子　先生	講義	ホワイトニング相互実習に向け、基礎知識や処置方法を学ぶ
3	ホワイトニング実習①ガムダム実習 末光　妙子　先生	演習	ホワイトニング相互実習に向け、歯肉保護材（ガムダム）操作を相互実践する
4	ホワイトニング実習①ガムダム実習 末光　妙子　先生	演習	ホワイトニング相互実習に向け、歯肉保護材（ガムダム）操作を相互実践する
5	ホワイトニング実習②ガムダム実習（練習）	演習	ホワイトニング相互実習に向け、歯肉保護材（ガムダム）操作を相互実践するにあたり技術サポート補講を行う
6	ホワイトニング実習②相互実習 末光　妙子　先生	演習	ポリリンホワイトニング相互実習
7	ホワイトニング実習②相互実習 末光　妙子　先生	演習	ポリリンホワイトニング相互実習
8	歯科衛生士向けヘアメイク講座 Izumi先生	演習	マスクを着用していて表情がわかりにくい職業であっても、身だしなみや表情から 清潔感・親しみやすさを持ってもらえるような工夫を学び実践する

科目名	歯科訪問診療ゼミ	年次	1	選択科目	実務経験	科目責任者	田熊栄恵/澤田明子/白土麻里奈
		授業形態	講義・演習		有		
（英）	Advanced dental practice	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	月/3.4限

講師紹介	森田　英明：医療法人社団翔舞会　エムズ歯科クリニック　事務局長 田熊　栄恵/澤田　明子：歯科医院にて臨床経験を有した教員が、歯科衛生士として必要な講義・実習を行う。 白土　麻里奈：歯科訪問診療に特化した臨床経験を有した教員が、歯科衛生士として必要な歯科訪問診療の講義・実習を行う。
目的	多種職協働のチーム医療に対応できる歯科衛生士を育成する。
科目概要	各専門分野で活躍されている業界の方から、演習を通して実践的な知識・技術を習得することができる。
到達目標	訪問歯科で働く歯科衛生士の業務内容を知り、将来像を明確にする。
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （　）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験　☐ 口頭試験　☐ 実技試験　☐ 論文　■ レポート

教科書		事前事後学習とその内容	各歯科分野に興味を持つ。 日頃の通常授業においても積極的に学び知識を深めること。
参考図書	エムズ歯科　歯科訪問診療入門実践ナビ		
特記事項	演習授業実施時には講師から指示のあった準備物を持参する		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	訪問の基礎知識 10月28日（月）　13:20-16:30 医療法人社団　翔舞会　エムズ歯科	演習	歯科衛生士として訪問歯科の基本となる基礎知識を修得する
2	訪問の基礎知識 10月28日（月）　13:20-16:30 医療法人社団　翔舞会　エムズ歯科	演習	歯科訪問診療を理解し、全体の流れや介入前の口腔内アセスメントについて学ぶ
3	訪問の口腔ケア基礎知識 11月11日（月）　13:20-16:30 医療法人社団　翔舞会　エムズ歯科	演習	歯科訪問診療を理解し、口腔ケアの手技、口腔リハビリケア、食事介助を身につける
4	訪問の口腔ケア基礎知識 11月11日（月）　13:20-16:30 医療法人社団　翔舞会　エムズ歯科	演習	歯科訪問診療を理解し、口腔ケアの手技、口腔リハビリケア、食事介助を身につける
5	多種職連携　基礎知識 11月25日（月）　13:20-16:30 新東京歯科衛生士学校　　白土　麻里奈	演習	多種職連携、チーム医療について学ぶ
6	多種職連携　基礎知識 11月25日（月）　13:20-16:30 新東京歯科衛生士学校　　白土　麻里奈	演習	摂食嚥下、評価、管理およびコミュニケーションについて学ぶ
7	多種職連携　基礎知識 12月2日（月）　13:20-16:30	演習	高齢者体験を通じて歯科訪問診療を理解を深める
8	多種職連携　基礎知識 12月2日（月）　13:20-16:30	演習	介護食の試食を通じて介護食を知り歯科訪問診療を理解を深める